

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4091800237
法人名	社会福祉法人グリーンコープ
事業所名	グリーンコープグループホーム飯塚・和(のどか (ユニット名))
所在地	飯塚市潤野976-13
自己評価作成日	平成27年10月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅前中央街7-1シック博多駅前ビル5F
訪問調査日	平成27年11月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

社会福祉法人グリーンコープグループホーム飯塚・和(のどか)は市街地そばの寄りつきの良い所にあります。近くには小、中、高校や公園、公民館、スーパーがあり散歩をすると色々な層の人と挨拶を交わしています。8月はお誘いを受け町内の夏祭りに参加しました、のどからも今年から行なっている認知症カフェに町内の方々が参加くださり、私たちが日頃行っている介護や認知症のかたとの関わりを地域の方に教えたり、また、教えられたり良い関係が築けています。GHのどかでは自分達で作った理念に基づき「のんびり、ゆったり、そのひとらしく」を大切に「共に生きる」のどかを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は閑静な住宅地の中に立地している。2階建ての建物の1階がグループホームで、訪問介護事業所とデイサービス、居宅介護支援事業所も併設されている。徒歩圏内にスーパーやドラッグストアがあり、大型のショッピングセンターも近隣にある。管理者は、グループホーム設立時の土地探しから関わりをもっており、熱い思いをもって開設に至っている。職員には「自分の親だったらどう思うか」を常に考える介護サービスを提供するよう伝えており、日々の実践につなげている。利用者はゆっくりと毎日を楽しみながら過ごせるような環境が整っている。今年から認知症カフェの取り組みも開始になり、地域に向けて認知症の方への理解を深める機会づくりとして、利用者や地域の方との交流の場になるよう企画している。地域の福祉サービスの拠点としての役割も担っている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,38)	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	のどかの理念は2014年4月より新しく作り替えました。開所当時のメンバーが減り新しく働く職員とどのようなのどかにしたいか話し合っただけです。毎朝、引き継ぎの後全員で復唱して実践に繋げています	昨年、新しくした理念は、職員と一緒に作ったもので、玄関口やリビングの目につくところに貼り出しているため、職員は意識して取り組んでいる。研修時でも理念を意識した実践となっているか振り返るようにしており、職員間の共通の考え方として定着している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	自治会に加入し、回覧板をご利用者と一緒に届けに行ったり町内の行事に参加している。また、のどかの行事やふくしセンターの行事を回覧板にのせてもらったり交流を行っている	今年から認知症カフェを始め、開催のお知らせを地域の回覧板に入れてもらい参加者を募っている。地域の方の楽しみになっており、利用者や職員にとっての楽しみにもなっている。認知症の方とのふれあいが認知症の理解になり、町内の行事のお誘いにもつながっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年から認知症カフェを行い月1回(8, 9月なし)の開催をしている。認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて発信しつつ自分達も学んでいる		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議ではのどかのご利用者の報告やご意見を頂きサービスの向上に生かしている。外部評価についても報告した	運営推進会議は利用者や家族、老人会会長、市の職員も参加して2ヶ月に1回開催している。町内の行事予定を聞くことができおり、地域の夏祭りの参加につながった事例がある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議のメンバーにも市介護保険課職員に入ってもらい、事業所の報告や利用者のご様子など伝えている。また、分からない時はいつでも市介護保険課に尋ねたりできる関係性を持っている	認知症カフェの取り組みにおいて地域包括支援センターと連携をとっている。新しく始まるマイナンバー制度のことで、利用者の受け取り場所について相談したり、介護保険制度のことで確認したりしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービスにおける禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関、各室のサッシ等に施錠はしていないがチャイムを付けたり夜間はセコムを掛けている。職員は常にご利用者の位置を把握するよう心掛け、不安な方には個別対応や散歩に出掛けている	身体拘束をしないケアについて対応マニュアルを作成しており、職員は理解している。常に利用者の姿に気を配り、外に出かけようとする利用者にはさりげなく同行したり、雨天時にはドライブをしたりして気持ちを止め個別に対応している。夜間にセンサーマットを使用している方もいるが、外す方向での話し合いをしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	センター職員全員参加の研修を2月に予定している。虐待などが起こらないように特に重度の方には二人介助でおこない防止に努めている。かも報告やヒヤリハット報告も効果も上げている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用されている方がおり、制度について学んできた職員より職場会議で媒介したり、弁護士という言葉などを伝え職員に理解出来るようにした	現在、成年後見制度を利用している利用者がいるので、職員は制度について具体的に学んでいる。家族会などで制度についてのパンフレット類を配布することによって情報提供をしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結や解約または改定時にはご利用者家族に説明し署名捺印をもらっている		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に4回程家族会を開きご意見・ご要望を伺っている。また、ご家族来訪時には個別に話を聞くようにしている。意見箱は設置しているが今のところ入っていない。	意見箱を玄関口に設置しているが、これまでに入っていたことはない。音楽会を開催した時に別室にて家族とお茶会を開催しており、管理者や看護師も同席して意見を聞く機会としている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職場会議を開き運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設けている。今年から「かも報告」を作り意見や提案が出しやすいようにした	毎月の職員会議などで自由に意見を出せる雰囲気がある。研修に行った職員の提案により、「かも報告」という日々の気づきをメモして職員同士共有する取り組みを始めたところ、より多くの意見が出てくるようになって利用者の個別対応や処遇に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	今年からキャリアパス制度を活用し各自の目標を設定し達成に向けての研修や技術講習、資格取得出来るように環境を整えている。勤務についてもできるだけ希望に添うようにしている		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	採用にはセンター長と管理者とリーダー等が行っている。長く勤めて欲しいので本人の働き方の希望を聞いたりその人柄に焦点をあてて採用している。現在20代～60代の職員が働いており、それぞれ希望の働きをしている	職員一人ずつの希望に応じた勤務や、急な休みでも職員間で調整しあい働きやすくしている。手芸やピアノ、おやつ作りなど得意な面を利用者との関わりに活用し生き生きと勤務している。外部研修は交通費や受講料を法人負担とし、職員は交替で参加しており、各自が目標を立て自己研鑽に励んでいる。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	社福全体の「人権研修」を受けた。また、11月に管理者が地域密着型サービス事業所連絡会の人権研修を受け職場会議で媒介する予定。全ての人に人権の尊重された職場にしたいと考えます	法人内の研修の中に人権研修をいれている。3日間の企画にしてすべての職員が学習できる機会を設けている。近々、地域密着型サービス事業所連絡会の研修に福岡県人権講師団から招聘しての研修会に管理者が参加するので、伝達研修をする予定である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修と、それぞれの希望する研修には積極的に受けるように環境を整えたり推奨している		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	飯塚市地域密着型サービス事業所連絡協議会に入り同業者と交流や勉強会をしている。今年、排泄研修を行い、11月には人権研修を予定している		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	3月から新しく入居されたかたには前利用のデイや訪問の事業所、ご家族から聞き取りをして本人の安心を確認するための関係づくりに努めている		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族と面談し不安なことや要望を伺ってスムーズに入居できるようにした		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申し込み時にご本人やご家族と面談を行いグループホームの生活になじめるよう、他のサービスの利用も含めて話をしている。希望者に理髪、訪問歯科、通院等の対応をしている		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員はご本人を介護する側、される側とに分けず、共に生きる人として接している。出来る家事に参加して頂いたり一緒に出掛けたり、共に暮らす関係を大切にしている		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	のどかでの行事には必ずご家族にも声かけをし参加して頂いた、敬老会、誕生会、催しもの等ご家族が一緒だととても喜ばれる。また、受診時も出来るだけ同行して頂き健康状態を把握してもらっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	希望があれば馴染みのパーマ屋に行かれるように支援したり、家に帰りたくなったら家に帰れるように支援している	家族をはじめ、近所の人も気軽に会いに来ることがあるので、各居室や共用のフロアでゆっくりと過ごしてもらえるように歓待している。携帯電話を預けている利用者があり、通話の取り次ぎを支援したり、家族に連絡して外泊の依頼をしたりして、これまでの関係が途切れないように努めている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	洗濯物の整理や掃除、料理のつぎ分けなど出来る家事等を皆で助け合いながら行い、終わると、お茶を頂いたりしてお互いが労をねぎらえるような関係を築いている		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	2月に看取りをした方のご主人が一人暮らしになられたのでげんきカフェにお誘いしたら来られた。他のご家族とお会いされ喜ばれていたため継続していきたいと思っている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の日頃の暮らしぶりや言動、ケアマネ、ご家族からの情報などで希望や意向を把握し、お気持ちに添えるよう努めている	日々、利用者と雑談したり関わる中で意向や思いを把握している。寡黙な利用者には、家族や利用者を知る方に情報を教えてもらったり、利用者に寄り添う中で表情や行動から本人の思いや意向を推し測り本人本位に支援している。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントを基本にしご家族や友人からの情報やご本人の会話の中からこれまでの暮らしぶりなどを把握するように努めている		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントやケア会議、モニタリングを行い、ご本人の把握に努めている 管理者、計画作成者もケアに入り介護員からの情報だけでなく実際の現状を把握するように努めている		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月ケア会議を開き各担当者からの情報や意見交換をし現状に即した介護計画を作成している	利用者の担当は決めているが、全職員で家族同様に関わっている。毎月のケア会議で個々の利用者について全員で話し合い、かかりつけ医や関係者の意見を聞いて計画作成担当者が素案を作成している。家族には毎月利用者の状況報告書と一緒に意見等を聞いている。ケア会議ではモニタリングも行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録にケアの実際、結果、気づき等を記入している。また個別の目標を書き込み評価にて介護計画の見直しに生かしている		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	各担当者とのケア会議や必要時に意見を聞き、ニーズの変化を把握し対応できるようにしている		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	飾り山笠やひな祭り見学、地域で行われる夏祭りに参加したり、のどかで催しに近所の方にも声掛けして遊びに着て頂くようにしている		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	各自希望された医院の往診を受けることができるように支援している	利用者や家族が希望するかかりつけ医であり、協力医以外のかかりつけ医の受診時は、基本的に家族の同行としているが、家族が行けない時は職員が同行している。受診結果は、家族、事業所共に情報を共有している。他科(眼科、皮膚科等)受診も同様である。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師には週2回入ってもらい健康管理をしてもらっている。勤務時間外でも必要時にいつでも相談できる体制を取っている		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	10月に入院される方がいる。病院へ情報を提供したり、主治医から連絡してもらって、のどかでの生活状態を把握してもらっている		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族から重度化した場合や看取りの指針について同意をいただいている。のどかでの看取りを望まれている方には主治医と連携をとって支援に取り組んでいる	看取りに関するマニュアルを作成している。終末期を事業所という希望があれば、家族、かかりつけ医、訪問看護、職員がチームとなり、都度連携し密に情報を共有しながら支援している。家族の要望で宿泊や食事の提供もできるが、現在該当する利用者はいない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署に依頼し救急講習をディ、訪問介護の職員と共に今年9月に受けた		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練をのどかやディのご利用者も含めて実施している。避難訓練の確認や消火器の位置、緊急連絡網の確認などを行った。センターの防災マニュアルを作り地域との協力体制をとれるようにしている	スプリンクラーの設置等は完備されている。年に2回春と秋に避難訓練をしており、避難経路図をリビングの目につくところに掲示している。緊急時には民生委員や地域の協力が得られる体制は築かれているが、消防署員の指導参加は受けていない。備品については、食品、飲料水、おむつ等1週間分の準備がある。	一昨年までは消防署員の同席で訓練を行っていたところなので、年に2回の訓練を行うにあたり、消防署と連携を取り、1度は訓練時の様子を見てもらい指導を受けることが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念でもあげているように入居者のかたの「その人らしさ」を大切にしている。尊敬の気持ちを忘れず声掛け、対応には常に心掛けている	利用者には名前で声掛けをしている。失禁時やトイレへの声掛けは「トイレ」と言わず、「ちょっとお部屋へ行きましょうか」と誘導し、周囲の利用者に気づかれぬように配慮している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事でパン好きな方には希望どおりパンをお出したり 好みの飲み物など聞きとり飲んでいただいている。自己決定の出来る支援をしている		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事などゆっくりな方には見守りつつ待つケアをしている。散歩に行きたい時は優先して散歩やドライブに出掛けるようにし意志表示の少ない方でもご本人にお尋ねして表情や動きを観察して対応している		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日頃から身だしなみに気を付け、髪型や洋服の乱れの無いよう心掛け、特に外出時などおしゃれをして出掛けるようにしている		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は皆さんの楽しみの一つで準備や片づけなど出来る方に手伝ってもらっている。食事前にテーブルクロスをかけてもらい食事の雰囲気作りをした事は良かった。日曜日は職員とご利用者で昼食を作って楽しんでいる	日曜日に利用者と一緒に食材の購入に出かけたり、職員と一緒におやつを作ったり、土筆のはかまとりや梅ジュース作り、干し柿づくりなど手作りを楽しんでいる。職員も利用者と同じ物を一緒に食べながら必要な支援をしている。毎月の行事として外食に出かけたり、利用者の希望を聞き、店屋物を取り寄せる等食事を楽しむ工夫をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の形態は軟食中心でミキサー食、糖尿病食、一口サイズの方がおられる。できる限り自力摂食を援助している。ミキサー食の方にも味が混ざらない様に皿ごとに分けてお出ししている		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアは全員行っている。歯科の往診や検診を受けて治療や指導を受け実践している		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄時間を記録しそろそろかと思う時にトイレにお誘いしている。リハビリパンツ使用の方を3名布パンツに変えた	利用者の排泄表を作成してパターンを把握しており、事前にトイレへ誘導することで、失禁の予防を支援している。入居時にリハビリパンツを使用していた方が布パンツとパットだけの使用に改善する等、排泄の自立に向けた支援に取り組んでいる。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘解消の為、ヨーグルトや水分補給、果物や野菜の摂取を多くし、室内、戸外散歩などで身体を動かすようにしているが、難しい方にはかかりつけ医による薬のコントロールをしている		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は14時～16時で行っている。2日に1回の入浴にしているが高齢や病状などに応じて変更もある。入浴時は職員2人対応で安全に入浴できるようにしている。他に足浴をする方は毎日行い薬塗布をしている	入浴は安全面を最優先し、職員2名で対応している。利用者の身体面の重度化もあり、浴室にリフトが設置されているが、利用者が不安がるので使用していない。浴室の窓ガラス越しに見える樹木に、季節の花や果実を造花等で実らせて、入浴を楽しめるように工夫している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自宅で使い慣れた家具を持参されたり、これまでの生活習慣を尊重し、ベッドの使用等状況に合わせて準備している。居室の換気や室温・湿度にも気をつけている		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理は看護師が行い、介護職が服薬支援している。のみ込み問題のある方には粉やゼリーにしたのみ込みやすいように工夫している。服薬チェックは2名で行い服薬ミスを防いでいる。症状に変化があれば看護師や医師に連絡している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	新聞、本を読まれる方や散歩の好きな方、民謡が好きな方、一人ひとりの楽しみごと、気分転換などの支援をしている		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	昨年までバスを借りて桜、ひまわり、コスモス、紅葉など季節を感じる外出には全員で行っていたが難しくなってきた。近郊の外出にはご家族、地域の方の協力のもと出掛けられるよう支援している	天候の良い日は戸外に出て外気に触れるよう支援している。四季折々の花見や神社へのお参り、また、利用者の希望を聞き、墓参りやショッピング、日帰りの旅行を楽しんでいるが、車いすの利用者が増える中で全員での外出が難しい状態である。家族に声掛けしたり、地域の方の支援を得ながら外出支援を行っている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分でお金の管理ができる方は少なく2名で買い物に行かれる時に使われている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を出される方は少なく年賀状などできる限り名前など書いていただくようにした。電話をかけたいときは支援している		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各所に季節を感じる草花を生けたり、ご利用者と職員とで作成した切り絵、工作など飾ったり、室温、湿度も小まめに調整し居心地良く過ごせるよう工夫している	リビングは広く南側に面しており明るく、一人掛けから数人で腰かけられるソファが設置されている。リビングや居室、廊下には床暖房が施され、冬暖かく過ごせるよう配慮されている。浴室横には高い竹垣の和風造園があり、四季折々の花や樹木が鑑賞できるように工夫されており快適である。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ前にソファを置き、特に夕方など皆様が集まり談笑される場面がある		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	慣れ久しんだ鏡台、タンスなど持って来られご本人が居心地良く過ごせるような配慮をしている	居室は広く、掃出しのガラス戸で明るく閉塞感もなく、引き戸のトイレや洗面台が設置されクローゼットの備えもあり快適である。馴染みの家具や飾りで居心地良く過ごせる工夫がなされている。また、家族が希望すれば泊まれるスペースもあり安心につながっている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物はバリアフリーで安全でゆったりと過ごせるようになっている。廊下が長いので運動になる		